

平成 30 年度 第 1 回スーパーグローバルハイスクール(SGH)運営指導委員会

日時：平成 30 年 10 月 16 日 15 時 15 分～16 時 15 分

場所：千里高校 校長室

出席者：

○運営指導委員

久 隆浩	委員	近畿大学 総合社会学部環境・まちづくり系専攻	教授
藤本 英子	委員	京都市立芸術大学 美術学部	教授
羽間 功	委員	吹田市立高野台中学校	校長
秦 健吾	委員	大阪府教育センター 高等学校教育推進室	指導主事

○管理機関・大阪府教育庁

松下 信之	教育振興室 高等学校課 教務グループ	主任指導主事
-------	--------------------	--------

○千里高校

天野 誠	校長
山下 尚紀	教頭
大西 千尋	首席 (SGH 事業推進主担当・英語)
渡辺 肇教諭	(国際科学教育部長・国際文化科長・英語)
松井 活夫	教諭 (「探究」「探究基礎」チーフ・国語)
菊池 奈津子	教諭 (「探究」担当・国語)
二井 三喜夫	教諭 (「探究」担当・社会)
田窪 亮志	教諭 (「探究」担当・社会)
中西 雅治	教諭 (「探究」担当・英語)
宮野 伊津子	教諭 (「探究」担当・英語)
近澤 一友	教諭 (1 年「国際理解」担当・社会)
本間 直也	教諭 (1 年「国際理解」担当・社会)

次第：

1. 校長挨拶
2. 委員紹介
3. 座長の選出
4. 取組状況報告 –今年度の試み・成果・課題
 - 1) 2 年生の課題研究「探究」について
 - 2) その他の取組について
 - 3) 追跡調査アンケート結果・前回の委員会で助言を受けた内容について
5. 指導助言

主な助言

課題研究『探究』中間発表について

- ・ 好評価
 - ・ 自分ごと・自分が課題だと思ったテーマに取り組んでいる。
 - ・ 文献は、書物からの引用が多く見られた。
 - ・ さすがに高校生だと感心した。データの検証、正しいのかどうかを確かめながら研究を進めている。

課題と助言

- A) 探究の芽を育て、伸ばす：
 - ・ 1 年時から探究のきっかけづくりをさらに校内で。
 - ・ 関心のある生徒が 5、6 人でも一人の研究している生徒に対して自由にディスカッションできる場が作れる仕組みを学校が作るようにしてはどうか。授業外で、日時を予告して関心のある生徒が集まる。学年を超えて持つと良い。
- B) テーマ設定：大きすぎる・小さすぎる。テーマと結論がかけ離れている。
 - ・ これに気づける機会の提供
 - ・ 生徒の考えを引き出しながらの対話が必要
 - ・ 現場や経験から出発するのが最も良い。漠然としたところで遠くから上から物を見てしまうと絞り込めない。そこをどうやって身近なものにするのがポイントだ。自分達の行いが児童労働や飢餓の問題の一因になって

いるというように、自分のものとして受け止めさせると良い。

- ・ 絞り込むというのは、人生にとってとても重要なトレーニングだと思う。『探究』の時の絞り込みを、そう位置付けるといい。
 - ・ 指導する側からすると、どこまで待てるかが勝負になる。先に動いてしまうとそれに頼ってしまう。「時間がないからここまでしか行きませんでした」ということになっても、待っている間に生徒は成長しているかもしれない。発表の内容は稚拙かもしれないが、人間的に成長できていると考えたら、待てるのではないか。そこをどう評価するかも勝負になる。
- C) 研究の目標設定
- ・ 提案を目標にすると稚拙な結論になってしまう。探究部分だけをしっかりとやる方が良い。
- D) 研究方法
- ・ 量的な研究のほかに、インタビューや文献調査のような質的な研究の手法もある。簡単でいいので、「このように展開できる」と紹介することで、手法論としてもしっかりとした研究になる。
- E) 研究倫理
- ・ 著作権についても学ぶ機会を。体に対する実験、盗用にならないような引用の仕方。正しい引用の仕方が身につくと、整理がついてくる。
- F) 実態の理解：実態をもっと知って欲しい。
- ・ 実地調査の奨励を。中学校も協力できる。大学も協力できる。
 - ・ 外部資源と繋がるパターン・実績を整理して生徒に提示すると良い。
- G) ビジュアル資料：工夫が乏しい。何を訴えたいのかを視覚的にも訴えるべき。
- ・ プレゼンテーションの素晴らしいものを見せる機会を。

教科間連携・チームビルディング：

- ・ 他教科で習っている教養的な内容とリンクさせれば、今後社会についていろいろと学んでいくことの意味の理解にもつながっていく。
- ・ 『探究』で学ぶ意味を改めて実感できているのだと思う。それから科目を習っていくとそれぞれの科目を学ぶ意義の認識がより高まってくると思う。
- ・ 「つながりのマップ化」は、大変面白い。ある授業の内容がどういう位置付け・どういう関連になっているかについて教員が共通の思いを持つと、よりそれぞれの教科の授業の思いが強まる。
- ・ チームビルディングを進めると、将来的には効率的になり手間がかからなくなる。先生同士の理解が進めば、「この部分は自分がやるよりこの先生に頼んだ方が良い」と言ったことが見えてくる。お互いが「振り」合えるような関係が「つながり」の議論から見えてくるとよい。

SSH と SGH /文理融合

- ・ SGH と SSH をレイヤーとして重ねて、相互メリットをきちっと立ち上げると良い。
- ・ 同じ問題に対して異なるアプローチがあるということがお互いの気付きになれば、2つの専門学科がある千里高校の特徴が活きてくる
- ・ 今日の間接発表を理系の生徒に見せてどんな反応を示すのかを見るのという方法も検討に値する。

探究学習と卒業後の進路

- ・ 回答：卒業生への追跡調査アンケートで尋ねた。「『探究』『科学探究』での課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えましたか」という質問に対して、「とても」「多少」を合わせて約3割になる。課題研究以外の研修については約35%であった。もう少し広げて「国際化に重点を置いた大学に進学した」という質問に対しては約40%になる。
- ・ 大学の先生にも支援の依頼をするといい。その研究をしている先生にアポを取って詳しい話を聞かせてもらう。そうすると進路の選択にも役に立つ。
- ・ 「グローバル人材」は、語学力と専門性に加え教養を持つ人だと言われる。生徒にも、広い教養があってはじめてグローバル人材なのだということを伝えていただきたい。様々な問題の背景への理解が重要だ。